

テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響

—背景知識を共有する読者による検証—

奥村 信彦*

The Effects of Text Type on L2 Reading Ability —Through the analysis of recall protocols by readers who share the background knowledge—

OKUMURA Nobuhiko *

The aim of this study is to investigate the effects of text type, i.e., expository and narrative texts, on reading comprehension ability. In the study two typical expository texts and two typical narrative texts were used, all with the same topic so that the effect of the topic would be minimized. 46 Japanese learners of English participated in the study. They shared the background knowledge of the topic after having read relevant materials, which means the effects of the participants' background knowledge would also be minimized. They were required to read four texts one by one and recall all they remembered each time. Results show there tends to be a difference between a L2 learner's reading ability according to text type, and that the same reading ability is shown when he or she reads the same type of reading material. This tendency was more significant among less advanced learners. Other factors may affect reading ability when advanced learners read expository texts.

キーワード：テキストタイプ, L2 読解力, トピック, 背景知識

1. はじめに

L1 reading においてはテキストタイプにより読解プロセスに差異があることが指摘されている^{1) 2) 3)}. これを参考に奥村⁴⁾はテキストタイプを大きく expository と narrative に分け, expository 英文テキスト2つと narrative 英文テキスト1つを日本人被験者に読ませ, その直後に課したリコール・テストのプロトコルの分析結果から, テキストタイプによってL2読解力には差があり, 同じタイプのテキストを読む際にはほぼ同等の読解力が示され, これと, 異なるタイプのテキストを読む際の読解力との間には差が認められる傾向があり, この傾向は英語習熟度が高い読者においてより明確であることを確認している. これは, L1 reading と同様に L2 reading においてもテキストタイプにより読解プロセスに差異があることに起因す

るものと考えられる.

上記の研究では, 被験者に与えた3つの英文テキストは互いに関連をもたない, トピックの異なるものであった. 奥村⁵⁾はトピックによる影響を抑え, テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響をより正確に検証するため, 共通のトピックをもつ narrative 英文テキスト2つと expository 英文テキスト1つを日本人被験者に読ませ, リコール・テストを用いて理解の度合いを比較した. その結果, 全体としては奥村⁴⁾と同様の傾向が見られ, L2 習熟度が高い読者の場合その傾向がより明確であったものの L2 習熟度が低い読者についてはこの傾向が確認されなかった.

奥村⁶⁾は背景知識の有無がテキストの記憶や理解, 読解のプロセスに影響を与えること⁷⁾をふまえ, 奥村⁵⁾で用いた3つのテキストをトピックについて一定の背景知識を共有する日本人被験者に読ませ, 同様にリコール・テストを用いて理解の度合いを比較した. その結果, 奥村⁴⁾で確認された傾向はL2習熟度に関

* 一般科教授

原稿受付 2006年5月19日

ならず確認され、また、L2 習熟度が高い読者はテキストタイプに関わりなく一定レベルの読解を達成する可能性があることが確認された。

以上の研究では、被験者に与えた英文テキストは同じタイプのもので2つと異なるタイプのもので1つであった。奥村⁸⁾は共通のトピックをもつ narrative 英文テキスト2つと expository 英文テキスト2つを日本人被験者に読ませ、リコール・テストを用いて理解の度合いを比較した。その結果、全体としては奥村^{4) 5)}と同様の傾向が認められ、この傾向は L2 習熟度が低い読者で明確に確認された。L2 習熟度が高い読者の場合、narrative テキスト間についてはこの傾向がみられたが、expository テキスト間では明確には確認できなかった。

本研究では奥村⁸⁾で用いた4つのテキストを奥村⁶⁾と同様にトピックについて一定の背景知識を共有する被験者集団に読ませ、リコール・テストを用いて理解の度合いを比較する。

2. 研究の内容

2-1. 目的

本研究では、同じタイプのテキストを2つずつ用意することによって、テキストタイプが L2 読解力に及ぼす影響をより正確に検証することを目的とする。

テキストタイプが L2 読解力に影響を及ぼすことがないとすれば、テキストのタイプが異なっても、トピックが共通で、被験者もその背景知識を共有することから、テキスト間の理解度には差がないと考えられる。一方、テキストタイプが L2 読解力に影響を及ぼす可能性があるとするならば、同じタイプのテキストを読む際には同等の読解力が示され、これと、異なるタイプのテキストを読む際の読解力との間には差が認められることが予想される。

テキストの理解度の測定はリコール・テストによる。リコール・テストはテスト項目によって干渉を受けることがなく、理解の度合いをより純粋に計測する手段である⁹⁾ ことからアイデア・ユニットの総数を被験者の読解力を示す指標と考え、プロトコルの分析を試みる。

また、読解指導への示唆を得るため、学習途上にある被験者の英語習熟度に注目し、英語力との関係についても調査する。これは英語習熟度により読解力にどのような特徴が見られるかを検証するものである。

2-2. 調査の内容

2-2-1. 被験者

被験者は高等専門学校国際流通学科3年生49名である。本研究の1年4ヶ月前に副読本として *AMISTAD* (Pearson Educational Limited 1999)、1年前に *I Won't Get Up* (山口書店 1985)、6ヶ月前に *Martin Luther King, Jr.* (桐原書店 1983) を与え、その都度質問に対応した後に確認テストを実施した。リコール・テストに用いた4つのテキストはいずれも人種差別に関するものであるため、トピックについて被験者は一定の背景知識を共有していると考えられる。なお、欠席のためテストを1回でも受けることができなかった被験者3名は除外した。したがって被験者総数は46である。

2-2-2. 調査方法

(1)リコール・テスト

expository 英文テキストと narrative 英文テキスト各1つを1週間を挟み2回に分けて被験者に与えた。最初のリコール・テストを課す前に被験者に手順を説明し、①黙読した後、テキストに書かれていることをできるだけ多く正確に思い出し解答用紙に日本語で書くこと、②日本語訳である必要はないこと、③記憶していることをすべて流れに沿って書くこと、を指示した。各テキストにタイトルはなく、テキストタイプについても一切言及していない。

a. テキスト

4つのテキスト(注1)はトピックを共通にするためにアメリカ人ネイティブ・スピーカーの協力を得て筆者が作成した。各テキストの詳細は次のとおりである。また、作成にあたり参考にしたテキストを下に示す。

Expository 1:	単語数 138 FRE 評価 68.3 (容易)
Expository 2:	単語数 131 FRE 評価 62.3 (容易)
Narrative 1:	単語数 166 FRE 評価 87.3 (非常に容易)
Narrative 2:	単語数 160 FRE 評価 92.9 (非常に容易)

(FRE は Flesch Reading Ease を示す)

参考テキスト: *AMISTAD* (Pearson Educational Limited 1999)
I Won't Get Up (山口書店 1985)

Martin Luther King, Jr. (桐原書店 1983)

「リンカーン」(小学館 1964)

NEWATREAMII (増進堂 2004)

の Lesson 10 The Fight for Rights

いずれのテキストもアメリカにおける人種差別を共通のトピックとしている。2つの expository テキストは厳しい差別の状況と、これを克服しようと力を尽くした人々の存在について論じ、2つの narrative テキストはその具体的なエピソードを描いたものである。

b. テキストを与えた順番

1 週目: Expository 1, Narrative 1

2 週目: Narrative 2, Expository 2

c. 時間配分

① テキストを読ませる 3分

(読ませた後、テキストは回収)

② リコール・テストを課す 10分

(2) 英語テスト

3週目に語彙と文法の問題からなる英語テスト(注2)を実施し、これにより英語習熟度を判定した。本研究では Grabe¹⁰⁾, Lee and Schallert¹¹⁾ を参考に、基本的に L2 proficiency を語彙と文法の知識と定義する。問題は多肢選択形式で 50 問、配点は各 1 とした。試験時間は 40 分である。

2-3. 結果と考察

2-3-1. 各英文テキストを読む際に示される読解力

Carrell¹²⁾, 平野¹³⁾ を参考に, Expository 1 は 44, Expository 2 は 38, Narrative 1 は 48, Narrative 2 は 52 のアイデア・ユニットに分け, 1つのアイデア・ユニットを 1点とした。筆者がリコール・プロトコルを採点した後, リーディング研究の経験者 1名に各テキストにつき, 被験者のうち 16名分の採点を依頼した。Inter-rater reliability は 0.99 であり, 見解が異なる場合は協議により対応した。残り 30名分については協議の結果をふまえて筆者が再度見直した。

表 1 はそれぞれのテキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数及び英語テストの平均と標準偏差及び最低点と最高点を示したものであり, 表 2 は各アイデア・ユニットの総数間の相関係数を示している。

2-3-2. 各英文テキストを読む際に示される読解力と英語力

英語テストの得点により, 被験者 46名を平均点を境にして英語力上位群 22名と下位群 24名に分けた。表 3 は上位群の expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニット総数の平均と標準偏差及び最低点と最高点を示したものであり, 表 4 は各組み合わせの相関係数を示している。

表 1 expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数及び英語テストの平均と標準偏差及び最低点と最高点 (N=46)

	Mean	SD	Min	Max
Expository 1	13.000	4.319	2	22
Expository 2	13.717	5.766	2	27
Narrative 1	24.783	7.790	2	35
Narrative 2	29.261	9.176	0	46
英語テスト	20.674	4.389	13	33

表 2 expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数間の相関係数

	Expository 1	Expository 2	Narrative 1	Narrative 2
Expository 1	1.000			
Expository 2	0.655 **	1.000		
Narrative 1	0.540 **	0.616 **	1.000	
Narrative 2	0.487 **	0.554 **	0.654 **	1.000

** p < .01

表3 英語力上位群の expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数の平均と標準偏差及び最低点と最高点 (N=22)

	Mean	SD	Min	Max
Expository 1	14.000	4.200	6	22
Expository 2	14.864	5.102	2	27
Narrative 1	24.455	9.079	2	35
Narrative 2	30.591	7.499	9	44

表4 英語力上位群の expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数間の相関係数

	Expository 1	Expository 2	Narrative 1	Narrative 2
Expository 1	1.000			
Expository 2	0.485 *	1.000		
Narrative 1	0.640 **	0.592 **	1.000	
Narrative 2	0.417 +	0.320 ns	0.646 **	1.000

** p<.01 * p<.05 +p<.10

表5 英語力下位群の expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数の平均と標準偏差及び最低点と最高点 (N=24)

	Mean	SD	Min	Max
Expository 1	12.083	4.222	2	19
Expository 2	12.667	6.128	4	25
Narrative 1	25.083	6.782	11	35
Narrative 2	28.042	10.330	0	46

表6 英語力下位群の expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニットの総数間の相関係数

	Expository 1	Expository 2	Narrative 1	Narrative 2
Expository 1	1.000			
Expository 2	0.762 **	1.000		
Narrative 1	0.482 *	0.716 **	1.000	
Narrative 2	0.519 **	0.667 **	0.744 **	1.000

** p<.01 * p<.05

リコールされたアイデア・ユニット総数の各組み合わせの相関は Expository 2 と Narrative 2 のテキスト間を除き、いずれも有意性あるいは有意傾向が認められた。Expository 2 と Narrative 2 のテキスト間を除き、各組み合わせとも両変数の間には中程度の相関があるとと言える。

expository と narrative のテキスト間の相関係数に比べ、narrative テキスト間の相関係数が.646 と高いことは注目してよいと思われる。

これに対し、expository テキスト間の相関係数は.485 で Expository 1 と Narrative 1 のテキスト間および Expository 2 と Narrative 1 のテキスト間の相関係数よりも低いことがわかる。

表5は英語力下位群の expository と narrative の各テキストについてリコールされたアイデア・ユニット総数の平均と標準偏差及び最低点と最高点を示したものであり、表6は各組み合わせの相関係数を示している。

リコールされたアイデア・ユニット総数の各組み合わせの相関は、いずれも有意性が認められた。

expository テキスト間、narrative テキスト間および Expository 2 と Narrative 1 のテキスト間には強い相関が、その他の組み合わせには中程度の相関があると言える。しかしながら、expository テキスト間の相関係数が.762、narrative テキスト間の相関係数が.744 と高いことは注目してよいと思われる。

以上から、全体としては、テキストタイプにより英文読解力には差があり、同じタイプのテキストを読む際にはほぼ同等の読解力が示され、これと、異なるタイプのテキストを読む際の読解力との間には差が認められる傾向があること、また、英語習熟度の低い読者についてはこの傾向がより顕著であることが確認された。

英語習熟度の高い読者について、expository テキスト間の相関係数が expository と narrative のテキスト間の相関係数よりも低かったことは全体の傾向からは予期しがたい結果であった。

奥村⁸⁾においても英語習熟度の高い読者については同様の結果が得られた。これには何らかの要因があるものと思われるが、その1つとして expository テキストの持つディスコースタイプが考えられる。

Carrel¹⁰⁾ は、L2 の読者も L1 の読者と同じように、構成の度合いが高いディスコースタイプ (causation, problem/solution, comparison) は構成の度合いが低いディスコースタイプ (collection of descriptions) よりもリコールの量が多いと報告している。これは、ディスコースタイプにより読解の度合いに違いが生じることを示すものである。

本研究で用いた2つの expository テキストは、いずれも2つのパラグラフからなり、however の存在により形の上では comparison のように見える。しかし、Expository 1 のテキストは時の経過による collection of descriptions の、Expository 2 のテキストは problem/solution の要素が多く、英語習熟度が高い被験者の場合、この違いが読解に影響を及ぼした可能性が考えられる。

3. 結論

背景知識を共有する被験者による、共通のトピックを持つ4つのテキストのリコール・プロトコルの量的分析から以下の点が明らかになった。

①テキストタイプによって L2 読解力には差があり、同じタイプのテキストを読む際にはほぼ同等の読解力が示され、これと、異なるタイプのテキストを読む際の読解力との間には差が認められる傾向がある。

②L2 の習熟度が低い読者についてはこの傾向がより顕著である。

③L2 の習熟度が高い読者の場合、expository テキストを読む際にテキストの持つ他の要因が読解に影響を及ぼす可能性がある。

本研究で用いた2つの expository テキストのディスコースタイプは明確さにやや欠けるものであった。③の他の要因の1つと考えられるディスコースタイプが expository テキストの読解に及ぼす影響の解明は今後の課題としたい。

(注1) 各テキストは奥村 (2005b) を参照されたい。

(注2) 平成7年度および8年度文部省認定実用英語技能検定試験から以下の問題を選んだ。

I 語彙問題 (問題数 30)

内訳

準2級 (14問)

平成7年度第1回一次試験の問題1から語彙を問うもの 4問

平成7年度第2回一次試験の問題1から語彙を問うもの 3問

平成8年度第1回一次試験の問題1から語彙を問うもの 3問

平成8年度第2回一次試験の問題1から語彙を問うもの 4問

2級 (16問)

平成7年度第1回一次試験の問題1から語彙を問うもの 8問

平成7年度第2回一次試験の問題1から語彙を問うもの 2問

平成8年度第1回一次試験の問題1から語彙を問うもの 2問

平成8年度第2回一次試験の問題1から語彙を問うもの 4問

II 文法問題 (問題数 20)

内訳

準2級 (8問)

平成7年度第1回一次試験の問題1から文法を問うもの 3問

平成7年度第2回一次試験の問題1から文法を問うもの 2問

平成8年度第2回一次試験の問題1から文法を問うもの 3問

2級 (12問)

平成7年度第1回一次試験の問題1から文法を問

うもの 4問
 平成7年度第2回一次試験の問題1から文法を問
 うもの 3問
 平成8年度第1回一次試験の問題1から文法を問
 うもの 2問
 平成8年度第2回一次試験の問題1から文法を問
 うもの 3問

参 考 文 献

- 1) Olson, G.M., S.A. Duffy, and R.L. Mack. (1980). Applying knowledge of writing conventions to prose comprehension and composition. In Mckeachie, W. E. (Eds.), *Learning, cognition, and college teaching* (pp. 67-84). San Francisco: Jossey-Bass.
- 2) Olson, G.M., R.L. Mack, and S.A. Duffy. (1981). Cognitive aspects of genre. *Poetics*, 10, 283-315.
- 3) Olson, G.M., S.A. Duffy, and R.L. Mack. (1984). Thinking-out-loud as a method for studying real-time comprehension process. In Kieras, D.E. and M.A. Just (Eds.), *New methods in reading comprehension research* (pp.253-286). Hillsdale, New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates Publishers.
- 4) 奥村信彦 (2003) 「テキストタイプが L2 の読解プロセスに及ぼす影響—複数のテキストによる検証—」『中部地区英語教育学会紀要』第33号 247-252頁
- 5) 奥村信彦 (2004) 「テキストタイプが L2 読解力に及ぼす影響—共通のトピックのテキストによる検証—」『中部地区英語教育学会紀要』第34号 37-42頁
- 6) 奥村信彦 (2005a) 「テキストタイプが L2 読解力に及ぼす影響—背景知識との関係—」『富山商船高等専門学校研究収録』第38号 113-118頁
- 7) Alderson, J.C. (2000). *Assessing reading*. Cambridge University Press.
- 8) 奥村信彦 (2005b). 「テキストタイプが L2 読解力に及ぼす影響—2つのタイプ4つのテキストのリコール・プロトコル分析による検証—」『中部地区英語教育学会紀要』第35号 131-138頁
- 9) Bernhardt, E. (1991). *Reading development in a second language*. Norwood: Ablex Publishing.
- 10) Grabe, W. (1991). Current developments in second language reading research. *TESOL Quarterly*, 25, 375-406.
- 11) Lee, Jeong-Won and Schallert, D. L. (1997). The relative contribution of L2 language proficiency and L1 reading ability to L2 reading performance: A test of the threshold hypothesis in an EFL context. *TESOL Quarterly* 31, 713-739.
- 12) Carrell, P.L. (1985). Facilitating ESL reading by teaching text structure. *TESOL Quarterly*, 19, 727-752.
- 13) 平野絹枝 (1996) 「採点基準の違いが読解リコールに及ぼす影響—大学院生の場合—」『上越教育大学研究紀要』第15号 455-467頁
- 14) Carrell, P.L. (1984). The effects of rhetorical organization on ESL readers. *TESOL Quarterly*, 18, 441-469.